

V．発掘調査技術等研修会の記録

平成20年度 発掘調査技術等研修会 開催報告

1. 目的

具体的な遺跡発掘調査を検討する中で、埋蔵文化財保護体制の多様なあり方を確認し、埋蔵文化財行政が今後行うべき基本的な異様等について研修する。

2. タイトル 「民間調査組織と埋蔵文化財発掘調査について」

3. 主催 愛知県教育委員会・(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 主管 愛知県埋蔵文化財センター

4. 日時 平成21年2月13日(金)

5. 会場 愛知県埋蔵文化財調査センター 2階研修室 (弥富市前ヶ須町野方802-24)

6. 内容

1 「埋蔵文化財保護体制のあり方について」

講師 愛知県埋蔵文化財調査センター
所長 都築暢也

2 「調査標準と発掘調査のてびきの内容等について」

講師 愛知県埋蔵文化財センター
統括専門員 赤塚次郎

3 「東海市松崎遺跡での現地検討会」

講師 愛知県埋蔵文化財センター
調査研究専門員 池本正明

4 「民間調査組織を活用した発掘調査とその問題点」

講師 愛知県埋蔵文化財センター
主任専門員 石黒立人





研修会の最初は、弥富市の愛知県埋蔵文化財センター2階の研修室にて開催された。最初に、愛知県内の1970年代からはじまる埋蔵文化財の保護体制の歴史を顧みたうえで、現在の体制や問題点がまとめられた。その中で「資格制度」や「民間調査組織の導入」、「埋蔵文化財センター」の問題が提示された。次に、文化庁が取りむ「発掘調査のてびき」に示される「調査標準」について、グリッドの設定や遺構記号の例を挙げながら、その重要性和必要性を説いた。



午後からは、愛知県埋蔵文化財センターの東海市松崎遺跡の現場詰所に場所を移して研修会が続けられた。本センターが実施している「民間支援」体制について、調査現場の担当者から説明が行われた。ここでは、調査の全体指示を財団の研究者が行い、民間の調査員は労務管理や測量などを取りおこなっている。その中で、安全管理や測量技術、作業員の人員確保など、民間調査機関の介入により改善された事例が紹介された。また調査現場に移動する際に、道路横断の際の指差確認看板の設置等を確認したり、作業の効率化を図るために導入された機械の紹介が行われた。現場視察の後、詰所内にて本センターが取り組んでいる「民間支援」の体制について、他の遺跡の調査事例の報告が行われた。



質疑応答では、既に民間調査機関を導入した市町村担当者や、次年度以降に導入を検討している組織の参加者から、経費の増減や報告書の作成についての意見交換がなされた。また、専門の調査員と民間調査組織の調査員との立場のあり方などについて活発な意見交換がなされた。



